健康寿命 延ばそう
120
特定非営利活動法人 元気な120才を創る会

月刊 高齢者見守りサービス最前線レポート
みまもりプレス
2018 4月19日 THU：010号
■発行所／株式会社びゅ～すまいる編集舗・みまもりプレス編集部 〒116-0001 東京都荒川区町屋 3-2-1 ライオンズプラザ町屋115
■2018年4月19日発行号 ■お問い合わせ／TEL.03-3809-3705 FAX.03-5855-0251 ■発行者・編集人：八木澤 晃 ■毎月第3木曜日発行

電流センサー搭載 IoTリモコン『eRemote Pro』先行販売開始：リンクジャパン

外出先から確実に確認できる家電製品の「ON／OFF」

IoTデバイスの企画・開発などを手がけるリンクジャパン（本社東京都港区芝）では、自宅エアコンの稼働状況をスマホでどこからでも可視化できるという、IoTリモコン『eRemote Pro（イーリモートプロ）』（特許出願中）の先行予約販売を開始した。『eRemote Pro』は、Wi-Fi環境さえあれば、エアコンやテレビ、照明、オーディオなどの家電に付属している「赤外線リモコン」を学習することで、外出先のどこからでもスマホで自宅の家電を操作できるというもの。「リモコンを学習するだけ」なので、家電の型番・年式を問わず、現在家庭にある家電をそのまま操作することが可能となる。また、室内だけではなく、外出先からでもスマホで家電を操作することができるため、思いがけず帰宅が遅くなってしまう日や、旅行中などでも、外出先から照明やエアコンの「ON／OFF」が可能となる。

従来型の「IoTリモコン」は、外出先からON／OFF操作はできても、実際に指示通り家電が動いたのか、止まったのかどうかをスマホ上で確認することができなかったため、特に遠くに住む高齢家族の見守りや、ペットの留守番時の活用などで不安に感じる状況も多く、ユーザーからは『エアコンが正常に動作しているかどうか、スマホ上で確認できるようにして欲しい！』という要望が多く寄せられていたのだという。

販売時には『Amazon Alexa』『Google Assistant』にも対応する予定。先行予約販売は「日本経済新聞社」が運営するクラウドファンディング『未来ショッピング』で行なわれている。

◎『eRemote Pro』：未来ショッピング
https://nikkei.en-jine.com/projects/eremotepro

地域のみまもり

ヤマトグループ3社と高知県警が連携して「地域の見守り」

ヤマト運輸（他）

ヤマトホールディングス傘下の「ヤマト運輸」「ヤマトダイアログ&メディア」「ヤマト・スタッフ・サプライ」の3社（いずれも本社東京都中央区）は、高知県警察本部（高知市丸の内）との間で『地域見守り活動に関する協定』を締結した。同社の発表によれば、ヤマトグループ内の複数社が連携するかたちで都道府県の警察と協定を締結するのは全国で初の試みだという。

協定の具体的な内容では、ヤマトグループ3社の集配中、犯罪の前兆となるような異変を察知した際に、高知県警に情報を共有するほか、地域見守りの目を増やすという目的から『地域見守り隊』のステッカーを同社の集配車両に貼り、さらにドライバーが腕章をつけることで、犯罪の未然防止に努めるというもの。

ヤマトグループは、全国各地で高齢者の見守り支援や観光支援、産物の販路拡大などの地域活性化や課題解決に自治体と一緒になって取り組む「プロジェクトG」を推進しているが、今回の協定もその一環となるもの。

また、高知県警では「県民に寄り添い、ともに歩む」を運営指針とし、重点目標のひとつとして「犯罪の起きにくい社会の推進」を掲げ、団体や事業者とともに地域の見守り活動の推進に努めているという。

◎ヤマト運輸株式会社
http://www.kuronekoyamato.co.jp

シニア支援

「運転経歴証明書」を提示の65歳以上ユーザに特典

免許証の自主返納しやすい社会環境づくりに貢献

――メガネのアイガン――

愛眼（本社：大阪市天王寺区）では、運転免許証返納時に交付される「運転経歴証明書」を提示した65歳以上のユーザーに対して、「メガネ・補聴器の割引」を提供する取り組みを2016年より実施しているが、今春より特典を受けられる対象地域の拡大を図り、『メガネのアイガン』国内全245店舗において割引が受けられる体制を整えた。これにより4月10日からは居住地域に関わらず割引特典を受けられる。

この取り組みは、高齢ドライバーが運転免許を「自主返納しやすい社会環境づくり」に貢献することを目指して始められたもので、同社は地元の大阪府警察との間で「高齢者運転免許自主返納サポート企業」として協定を結んでいる。

特典内容としては、同店メガネ商品（サングラスを除く）を10%引きで販売。同じく店内補聴器商品を5%引きで販売する。

愛眼では「高齢者が利用することの多いメガネや補聴器の購入の場で免許の自主返納の促進に貢献することで、増加する高齢者の交通事故防止に寄与すべく、本特典の周知に努めてまいります」としている。

情熱の発明商品・発掘プロジェクト

シニアにやさしい『なるほどアイテム』を探せ

当コーナーでは、一般の方による「情熱の発明品」を紹介します。テーマはズバリ『介護予防』。それと並行してシニアにやさしい「なるほどアイテム」をピックアップします！掲載された商品に興味のある方は下記までご一報ください。

第８回 困っている人のために……「あきらめない！」

視覚障害者向け水位計『視視音支（ししおとし）』

▶発明者の永盛敬将さん

▲「自分自身の利益は二の次に考えています――」と言い切る永盛さんの情熱はつきない。YouTube 動画で観ると、商品の理解度も高まる。（「視視音支」で YouTube 検索）

シンプルな構造に思わず膝を打つアナログ派の名品！

「視視音支（ししおとし）」は永盛敬将さんが発明した、目の弱いお年寄りや、視覚障害者向けの新しい水位計です。特に目が見えない視覚障害者の方の中には、コップに飲み物を入れる際、「どこまで飲み物を入れたかわからない」という点に不便がありました。視覚障害者の方に聞いたところ、入れすぎてあふれてしまう方や、熱い飲み物でも指で触って水位を確かめている方もいたとのこと。これまでは、電子式で音が鳴る水位計はありましたが、水洗いができなかったり、電池交換が必要だったりと何かと不便。そこで永盛さんが発明したのが、電池不要でシンプルな形状の水位計「視視音支」です。（特許第６０５２６９６号）

「視視音支」は、「へ」の字の形をした器具の一端に、回転するように鈴が取り付けられています。水位が上がると浮力によりコップに入れた側が上がり、反対側が下がります。それによって鈴が回転（落下）して音が鳴る仕組みです。鈴が落下する部分に手を添えておけば、音も聞こえない視聴覚障害者の方も水位を知ることができます。これも、これまでの電子式の水位計にはない特徴です。

永盛さんは、現在企業に売り込みをして商品化を目指し頑張っていますが、障害者向けという特殊性からマーケットが小さいのがネックの模様。興味のある企業・団体様からのご連絡や、障害者ではない方への活用方法等の意見を募集しているとのこと。

「今回の発明について自分自身の利益は二の次に考えています。自分の発明が困っている人の役に立てたら嬉しいです。」と語る永盛さん。壁にぶつかってもあきらめずにチャレンジし続ける、今後の活躍が楽しみな発明家の一人です。動きが印象的なこの発明品。水がたまると竹筒が動いて、音がカコーンと鳴る「ししおどし」から閃いたのだとか。ユーチューブ（「視視音支」で検索）公開中の動画も、ぜひご参照ください！（松野泰明）

無料プレゼント！ 発明ガイドブック

「発明ライフ・入門」（希望者は下記まで）

〈この商品のお問い合わせは〉

一般社団法人 発明学会 発明アドバイザー 松野KJ係 まで

東京都新宿区余丁町７番１号　発明学会ビル

☎ 03（5366）8811　y-matsuno@hatsumei.or.jp

保育施設に最適な「呼吸見守りシステム」

『ヘルスケア IT2018』でデモ実施も

――PALTEK＋リキッド・デザイン・システムズ――

PALTEK（パルテック／本社：横浜市港北区）とリキッド・デザイン・システムズ（本社：横浜市港北区）では、４月18日から開催の『ヘルスケア IT2018』（東京ビッグサイト）に共同出展。保育施設向けの「呼吸見守りシステム」の展示を実施する。

展示されるのはリキッド・デザイン・システムズが開発した呼吸や体動を監視するバイタルセンサーを用いた『IBUKI PLUS』。iPad で呼吸や体動をモニタリングしながら乳幼児の睡眠を見守るというもの。特に「保育施設」などの安全対策の強化や保育士の心理的負担を軽減するための補助ツールとして活用が想定される。

例えば、保育士は iPad で乳幼児の睡眠状況を６人同時に見守ることができ、異変を速やかに察知し、もしもの時にも素早い対応につなげてゆく。PALTEK では保育施設にこの「呼吸見守りシステム」を提供することで「安心・安全な施設運営に貢献してまいります」としている。

国や地方自治体でも、保育施設への呼吸見守りシステムの導入についての支援を開始しており、平成29年度では東京都が待機児童解消に向けた追加対策において、「監視モニターやベビーセンサー等の設備導入」を促進するために、補助金が交付されるなどの追い風が吹いている。

『栄養睡眠改善トレーナー』認定資格を取得して、
あなたも活躍してみませんか？

眠りと食事で毎日げんき！

一般社団法人 日本栄養睡眠改善協会

The Japan Association for Better Sleep and Nourishment

ふくなお

見た目も美味しい介護食「食べたいを叶える」

母の日や誕生日などのハレのお祝いに嬉しい『やわらか御膳』

関西発介護食メーカーのふくなお（本社 大阪市東住吉区）では、「見て、食べて」楽しむことができて、もちろん歯ぐきでつぶせるやわらかさの新商品『やわらか御膳』を発売する。発売日は4月23日（月）。

1996年創業の同社は、関西生まれの「鍛えられた食材」を活用し、「形あるものを口から食べることで、より味わいのある人生を送ってもらいたい――」との願いをもって、商品開発を手がけている。

新商品『やわらか御膳』は、もうすぐやってくる「母の日」をはじめ、誕生日やその他お祝いごとの「ハレの日」にも最適の内容となっている。

◎ふくなお直営店『やさしさキッチン』（ネット通販）
http://www.rakuten.co.jp/fukunao/

こちら『元気シニアビジネスアドバイザー!!』

ブレーンモンジュ・林野 均の「シニア〝萬〟遊記」第9回

元気シニアの「アンテナライフ」

介護レクリエーションに注目

3月14日から3日間、東京ビッグサイトにおいて『東京 Careweek 2018』が開催されました。

たくさんのブースが出展されていましたが、その中で目を引いたひとつが『介護レク広場・book』という新しい雑誌です。

発行は『BCC株式会社スマイル・プラスカンパニー』。2010年に『介護レク広場』というWebサイトを立ち上げ、レクリエーションの素材を提供していますが、『レクネタ』の提供だけでは現場のレクは豊かにならないと実感し、200以上の介護施設を訪問して現場の生の声を集めたそうです。

そして、レクリエーションを系統立てて学べる仕組みを模索し、『レクリエーション介護士』という資格制度が開発されました。

「身体のリハビリは、注目されることが多く、とても重要なことです。しかしご本人にやる気がなければ続きません。

高齢者の心を満たし、元気と笑顔を取り戻すことができるのがレクリエーションの力で、それを支援することができるのが現場でレクリエーションに携わる人たちです。」（同誌「創刊によせて」より）。

その介護レクリエーションの重要性を各方面に発信し、現場の情報と正しいレクの知識を届けたいとの思いから「介護レク広場 .book」の創刊を決めたそうです。

5月1日（火）が創刊号の発売予定日で、年6回の発行とのこと。

また、『レクリエーション介護士』の資格制度はBBC株式会社スマイル・プラスカンパニーが運営を行ない「一般社団法人日本アクティブコミュニティ協会」が認定を行ないます。

5月1日に創刊される新雑誌。現場の声が集約された内容となっている。
関連サイト『介護レク広場』
http://www.kaigo-rec.com

Author／
林野 均（はやしの ひとし）
プランニング・ブレーン・モンジュ代表。
一般社団法人 日本元気シニア総研研究委員。
『元気シニアビジネスアドバイザー』資格を取得後、元気シニア総研研究委員として、シニア向け商品やサービスの取材を「自らのシニア目線」で精力的に行なっている。
http://genkisenior.com

生前整理・遺品整理で「植木の里親」依頼が急増中

◎株式会社やましたグリーン
http://www.yamashitagreen.com/parent/

造園企業のやましたグリーン（東京都八王子市）では、6年前から『植木の里親活動』を実施しているが、その依頼が開始当初と比較して「10倍以上」に増えているという。「終活」の一環として生前整理をするシニアが増えるなかで、実は処分に困っている人が多いという「庭木」。手塩にかけて育ててきた庭木は、家族の思い出がそのまま年輪に刻まれている。自分亡きあとの庭木の運命を心配するひとが同社に相談を寄せるのだという。

遺品整理の一環として庭木の伐採に訪れた依頼主宅で、「この木を育てていた父親に申し訳ない」など本当は処分したくないという想いがあるケースが重なったのが活動開始のきっかけ。

鉢に入ったものはそのまま引き取り、屋外に植えられているものは掘り出して根の部分を保護してから引き取って一旦同社の敷地内に植栽する。その後、HPやFacebookを見て「欲しい」という人がいれば、里親としての環境を確認をした上で運搬し、植木なら植栽して新しい里親に引き渡すという行程。

料金は最低限の活動費として、引き取りは「掘り出しと運搬費」、引き渡しは「運搬費と植栽費用」とされている。

利用者からは「誰に相談していいかわからなかったので助かった」などのよろこびの声が寄せられているという。

「今後はさらに多様な植物に対応できるよう、預かり場所に温室も備えたいと計画しています。場合によっては遠方でも対応する場合もあるのでまずは気軽に相談のご連絡を（同社）」とのこと。

◎丁寧に掘り起こされ、移植される庭木。

さがし愛・見守りセット
介護保険適用
SAN さがし愛ネット
ビーコンが、在室・外出・徘徊を検知、アラートでご家族に知らせます。

◎TAISコード：01717-000002
◎分類：徘徊老人監視システム
◎希望小売価格：¥150,000
製造：株式会社サンコウ電子
販売：さがし愛ネット合同会社
東京都千代田区外神田 2-12-6 ホリイビル 3F
http://www.sagashi-ai.net

安心のビーコン見守り
介護施設・無料モニター募集中!
・デイサービスご利用者などに簡単に体験して頂けます。
・受信機を置くだけで安心の見守りシステムができます。
・設置料・通信費などのご負担は一切ありません。

※地域ごとにモニター募集期間を設けます。詳しくは下記まで。
フリーダイアル
0120-966-696
メール
contact@sagashi-ai.net

あの製品にフォーカス 熱視線

アイキューラボ

『介護用おむつセンサー』で介護負担の軽減を

――「徘徊見守り」としても活用――

スマホアクセサリーメーカーのアイキューラボ（本社 名古屋市中区）では、「介護に役立つアイテム」として『介護用おむつセンサー』の販売を開始した。

『介護用おむつセンサー』は、おむつが濡れたことをアプリが知らせてくれるというもので、忙しい介護者の負担を軽減する効果が期待される。

紙おむつに取り付けられたセンサーが、排泄されたときの温度と湿度の変化を検知、スマホに通知してくれる。おむつの交換回数や、排泄の回数などをクラウド上に記録することもできるので、紙おむつ利用者の体調管理にもつながる。

センサーは最大4台まで、ひとつのスマホで管理することができるので、介護施設などの利用も見込まれる。

さらに、『おむつセンサー』がスマホと30m以上離れると、アラームが鳴る設計になっているため、徘徊防止の見守り機能としても活用できる。

『おむつセンサー』本体は、装着の負担をなくすために、薄くて通気性のあるシリコンカバーを採用。水洗いも可能なので清潔も保てる。価格は4980円（税込）。

◎株式会社アイキューラボ
http://www.iqlabo.com

介護医療分野「4月以降」の運営戦略と実務力養成

介護事業者全般に向けて多面的なスキルアップをバックサポートする日本通所ケア研究会（事務局：広島県福山市）では、今春（2018年）介護報酬・診療報酬の同時改定後に「介護・医療分野で働く人」が知っておくべきこと、また身に付けておくべき『運営戦略・実務力養成のスキルアップ講座』を開催する。

期間は「2018年4月28日（土）～12月8日（土）」まで「横浜・東京・名古屋・大阪・福岡」の5都市において開催される。

本講座は「運営戦略と実務力養成」をキーワードに、今後の業界で「必須」となるであろう知識と技術を「6つのセミナー」で構成する。（下記参照）

同研究会が提案するスキルアップコンテンツに共通していえることは、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上となる2025年に向けて、介護保険・医療保険制度が抱える課題にいち早く対応するための組織づくりの一環として、「先を見据える運営戦略・実務力を養成するための必須の知識・技術を高める」という点を目指しているということ。

業界「必須」となるであろう知識と技術を「6つのセミナー」で構成

（1）【自立型介護施設のつくり方】
（2）【急性期・回復期・生活期のリハビリ大改革】
（3）【質の高いリハビリ部門の運営管理】
（4）【ケア・サービスの質を向上させるアセスメント・コーチング】
（5）【リハビリテーション・機能訓練の質を上げるプログラム】
（6）【低栄養を防ぐ!摂食・嚥下障害の方へのアプローチ】をフォーカスする。

◎日本通所ケア研究会［公式サイト］https://www.tsuusho.com/skill/

サービス深掘り —FUKA-BORI—

さがし愛ネット(同)
http://www.sagashi-ai.net/
①

「認知症高齢者の見守り実証実験」から3年
地域インフラの整備拡大目標に事業展開

――さがし愛ネット――

2014年。愛知県大府（おおぶし）市で「BLEビーコン」を活用した認知症高齢者の見守り実証実験を開始して以来、常に地域との連携を想定しながら事業化への道筋を模索してきた『さがし愛ネット』。このほど介護福祉用具の認定も受け、いよいよ次のステージに移行する。今回から『さがし愛ネット』持田昇一代表に、その取り組みについて話を伺ってゆく。（新コーナー『深掘り』では、連載スタイルにて注目のサービスや製品に焦点をあてていきます）

――地域で実施された『見守りサービス実証実験』としては、草分け的な事例と伺いました。

持田　当時、名古屋工業大学の永井明彦先生とともに、愛知県大府市の社会福祉協議会などの協力のもと、第1回目の社会実験が実施されました。2014年当時はまだ、「ビーコン」という言葉すらあまり知られていない状況で、マスコミに採りあげていただいたのも最初であったと記憶しています。

私自身は（一社）日本開発工学会に属し、MOT（技術経営）の視点から、この取り組みの事業化を実現することで、「認知症高齢者の徘徊」という社会問題の解決につなげていきたいというのが原動力となっています。奇しくも2016年春に、「認知症高齢者」が徘徊中に列車にはねられたJR事故の最高裁判決が世間の注目を集めましたが、あの事故は本実験が実施された大府市で発生していたものでしたから、あのような痛ましい事故が二度と起こらないようにという思いからも、自然と使命感にもつながっています。

――地域との連携を重視して取り組まれているのですね。

持田　この取り組みの目的は多分に福祉的な意味あいが強いものですので、やはり地域の協力は不可欠なものとなります。特に私たちが実用面から最も有力視している「ビーコン」は、超小型であり、電池持ちもよいので充電する必要もないというメリットがある反面、パワーが低いため20～30mの範囲しか位置情報が飛ばないというデメリットもあります。それを補うために、より多くの受信インフラを整える必要があることからも、地域との連携が重要となってきます。受信インフラが拡大していくイメージの好例を挙げますと、『アサヒ飲料』さんが本社のある墨田区で実施している取り組みで、自社の自販機100台に受信機を装着するという施策を実施されています。このように街中に受信機が拡散していけばいくほど、「見守りインフラ」がより強固なものになっていくのです。

（次号②につづく）

持田昇一 代表

COSMO CREATOR
コスモ・クリエイター・ジャパン株式会社
www.cosmocreator.jp